

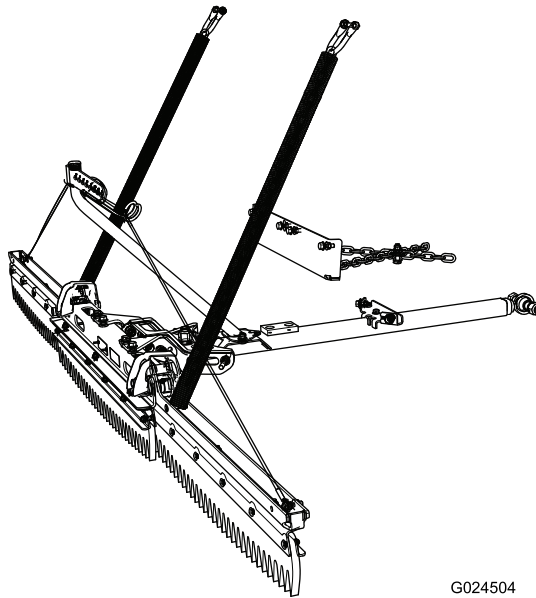


Count on it.

オペレーターズマニュアル

フレックス™・ツースレーキ Sand Pro® 2040Z トラクションユニット

モデル番号 08716—シリアル番号 314000001 以上
モデル番号 08716—シリアル番号 314000131 以上
モデル番号 08716—シリアル番号 315000001 以上
モデル番号 08716—シリアル番号 316000001 以上
モデル番号 08716—シリアル番号 400000000 以上
モデル番号 08716—シリアル番号 314000001 以上



G024504



▲ 警告

カリフォルニア州 第65号決議による警告

米国カリフォルニア州では、この製品を使用した場合、ガンや先天性異常などを誘発する物質に触れる可能性があるとしております。



図 2

g000502

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。重要「重要」は製品の構造などについての注意点を、注はその他の注意点を表しています。

はじめに

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からないまた適切な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのをお客様の責任です。

弊社のウェブサイト www.Toro.com で製品やアクセサリ情報の閲覧、代理店についての情報閲覧、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1 にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

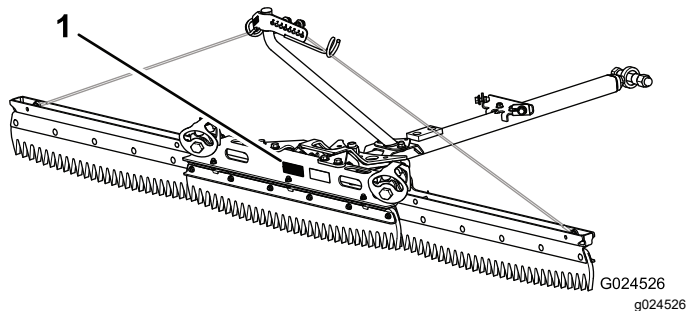


図 1

1. 銘板取り付け位置

モデル番号 _____

シリアル番号 _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号 図 2 を使用しております。死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから必ずお守りください。

目次

組み立て	3
1 タイヤ空気圧を調整する	4
2 出荷用ボードを取り外す	4
3 センターアセンブリとサイドアセンブリを取り付ける	4
4 レーキを牽引バーに接続する	5
5 ブームを取り付ける	6
6 ケーブルを取り付ける	6
7 ストップチェーン・アセンブリを取り付ける	7
製品の概要	8
運転操作	8
ウェイトの取り付けと取り外し	8
レーキを機体に取り付ける	9
ピボット・ストップボルトを調整する	10
均しパターンを点検し、リフトインターン・システムを調整する	11
レーキのピッチを調整する	11
レーキの上昇と下降	12
機体からレーキを取り外す場合の手順	12
バンカー内でのレーキ作業	12
故障探究	14

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	-	タイヤ空気圧を調整します。
2	必要なパーツはありません。	-	機体から出荷用のボードを取り除きます。
3	センターアセンブリ 右サイドアセンブリ 左サイドアセンブリ ボルト3/4 x 3-1/2 インチ ロックナット3/4" 長いスペーサ ケーブルガード	1 1 1 2 2 2 2	センターアセンブリとサイドアセンブリを取り付けます。
4	牽引バー ボルト3/4 x 3-1/2 インチ ロックナット3/4 インチ 長いスペーサ	1 1 1 1	レーキを牽引バーに接続します。
5	ブームアセンブリ キャリッジボルト 3/8 x 3/4 インチ フランジナット3/8" ボルト1/4 x 5/8"	1 2 2 1	ブームを取り付けます。
6	ケーブル ショルダボルト フランジナット (5/16")	2 4 4	ケーブルを取り付けます。
7	ストップチェーン・アセンブリ ボルト フランジナット (5/16")	1 1 2	ストップチェーン・アセンブリを取り付けます。

その他の付属品

内容	数量	用途
ボルト5/16 x 2-1/2 インチ フランジロックナット5/16" シャックル ボルト3/4 x 4-1/2 インチ ロックナット3/4 インチ 短いスペーサ ボルト5/16 x 1" フランジロックナット5/16"	2 2 2 1 1 2 4 4	レーキを機体に取り付けます。

1

タイヤ空気圧を調整する

必要なパーツはありません。

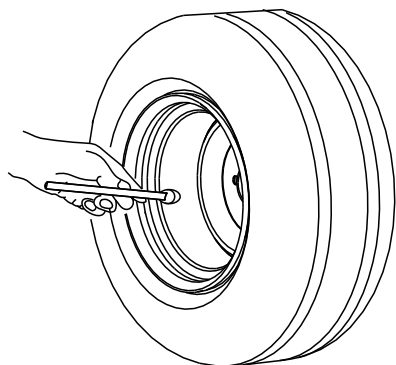
手順

レーキが適切に動作するためには、車両のタイヤ空気圧が適切であることが重要です。適正空気圧 48 kPa = 0.49 kg/cm² = 7 psi に調整してください。

図 3。

最も正確な測定ができるよう、調整はタイヤが冷えている状態で行ってください。

空気圧 48 kPa 0.49 kg/cm² = 7 psi



G001055

g001055

図 3

2

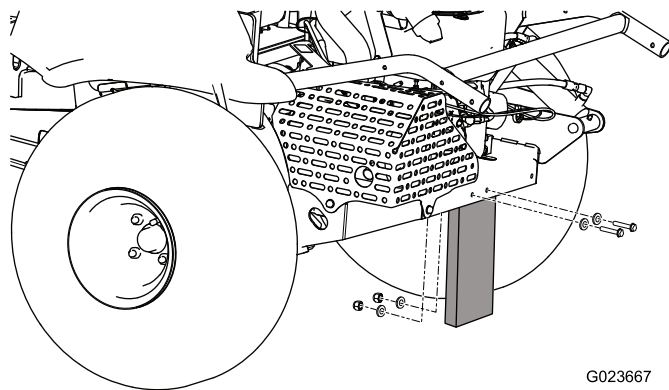
出荷用ボードを取り外す

必要なパーツはありません。

手順

新しいマシンにレーキを取り付ける前に、車体についている出荷用ボードを取り外す必要があります。

1. 出荷用ボードとブロー後部とを接続しているナット、ボルト、ワッシャを取り外す。



G023667

g023667

図 4

2. ボードを取り外し、ボルト類とともに廃棄する。

3

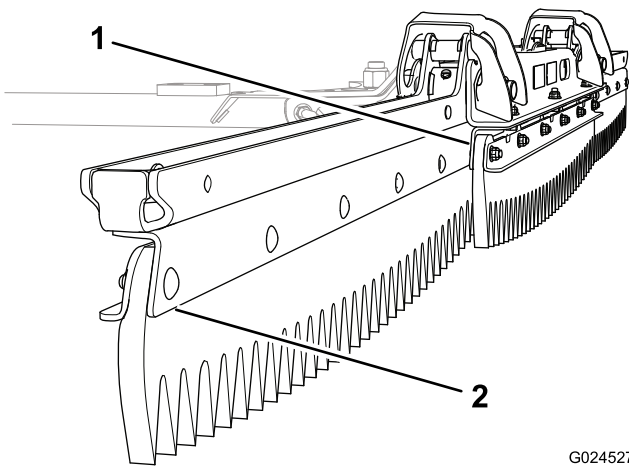
センターアセンブリとサイドアセンブリを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	センターアセンブリ
1	右サイドアセンブリ
1	左サイドアセンブリ
2	ボルト 3/4 x 3-1/2 インチ
2	ロックナット 3/4"
2	長いスペーサ
2	ケーブルガード

手順

1. センター・アセンブリのトッププレートが前を向くように、また、各サイド・アセンブリのトッププレートが後ろを向くように、各アセンブリを配置する 図 5。



G024527
g024527

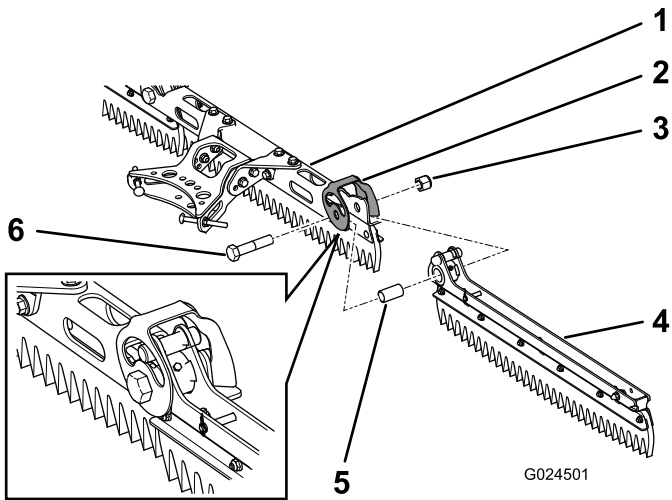
図 5

1. トッププレートが前向きセン
2. トッププレートが後向きサイ

ターアセンブリ

ドアセンブリ

2. 各サイドアセンブリのピボット穴に、長いスペーサを入れる 図 6。



G024501
g024501

図 6

1. センターアセンブリ
2. ケーブルガード
3. ロックナット3/4 インチ
4. サイドアセンブリ
5. 長いスペーサ
6. ボルト3/4 x 3-1/2 インチ

3. 右サイド・アセンブリのピボット穴を、センター・アセンブリの右側のピボット穴に整列させる。
4. ピボット穴にケーブルガードを整列させ、これらを固定するボルト3/4 x 3-1/2 インチとロックナット3/4 インチを使用し、163 - 217 N.m 16.6 - 22.1 kg.m = 120 160 ft-lbにトルク締めする 図 6を参照。

注 サイドアセンブリが自由にピボットすることを確認してください。必要に応じてナットとボルトを少しゆるめてもかまいません。レーキの首振り範囲のどの位置でも、キャリッジボルト同士が接触してはいけません。

5. 左サイド・アセンブリのピボット穴を、センター・アセンブリの左側のピボット穴に整列させる。

6. ピボット穴にケーブルガードを整列させ、これらを固定するボルト3/4 x 3-1/2 インチとロックナット3/4 インチを使用し、163 - 217 N.m 16.6 - 22.1 kg.m = 120 160 ft-lbにトルク締めする 図 6を参照。

4

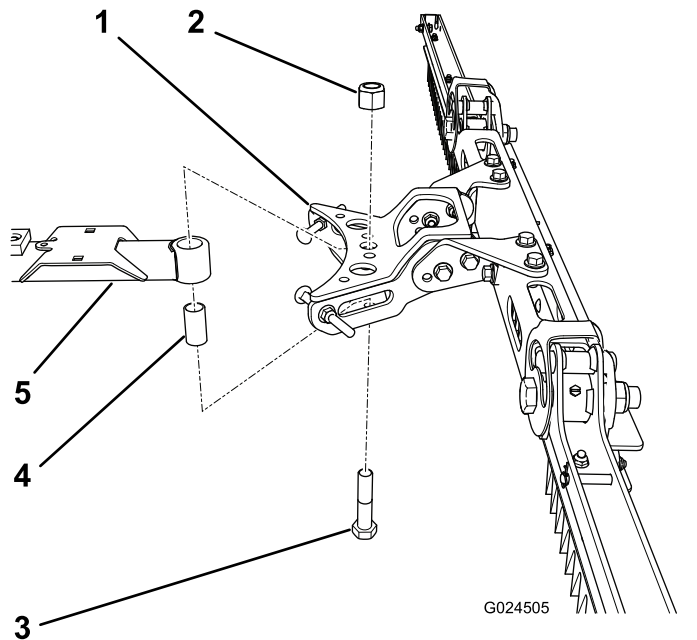
レーキを牽引バーに接続する。

この作業に必要なパーツ

1	牽引バー
1	ボルト3/4 x 3-1/2 インチ
1	ロックナット3/4 インチ
1	長いスペーサ

手順

1. 牽引バーの後部の穴に、長いスペーサを入れる 図 7。



G024505

g024505

図 7

1. ピボットアセンブリ
2. ロックナット3/4 インチ
3. ボルト3/4 x 3-1/2 インチ
4. 長いスペーサ
5. 牽引バー

2. 牽引バーの後部の穴を、ピボットアセンブリの穴に合わせる。
3. ボルト3/4 x 3-1/2 インチを使って牽引バーをピボットアセンブリに固定する。
4. ボルトにロックナット3/4 インチを取り付け、163 - 217 N.m 16.6 - 22.1 kg.m = 120 - 160 ft-lbにトルク締めする。

5

ブームを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ブームアセンブリ
2	キャリッジボルト 3/8 x 3/4 インチ
2	フランジナット 3/8"
1	ボルト 1/4 x 5/8"

手順

1. ブームアセンブリの底部のプレートにある穴を、牽引バーの後部の近くにあるプレートの穴に整列させる [図 8](#)。

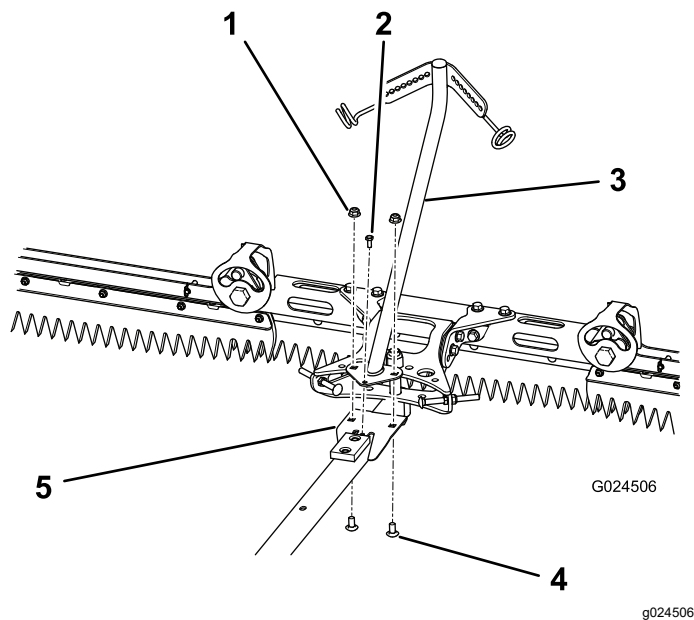


図 8

1. フランジナット, 3/8 インチ 2個
2. ボルト1/4 x 5/8 インチ
3. ブーム
4. キャリッジボルト, 3/8 x 3/4 インチ 2本
5. 牽引バー

2. 穴にキャリッジボルト3/8 x 3/4 インチ 2本を差し込み、フランジナット3/8 インチ 2個で固定する。

3. プレート前面にある穴にボルト1/4 x 5/8 インチを取り付ける。

6

ケーブルを取り付ける

この作業に必要なパーツ

2	ケーブル
4	ショルダボルト
4	フランジナット (5/16")

手順

1. 各ケーブルの端部を、レーキの端部の穴に合わせる [図 9](#)。

注 ケーブルの絡みつきなどが起こらないようにするため、ケーブル端部は [図 9](#) に示すように固定してください。

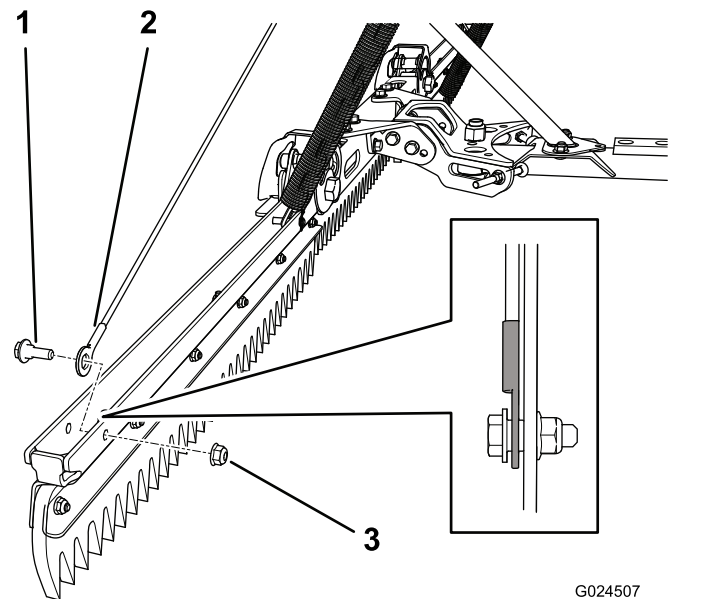


図 9

1. ショルダボルト
2. ケーブル
3. フランジナット (5/16 インチ)

2. 各ケーブルをショルダボルトとフランジナット5/16 インチで固定する。
3. 各ケーブルのもう一方の端部を、それぞれのケーブルサポートに通し、ブームアセンブリ上部の穴に取り付ける [図 10](#)。

注 ケーブルの絡みつきなどが起こらないようにするため、ケーブル端部は図 10に示すように固定してください。

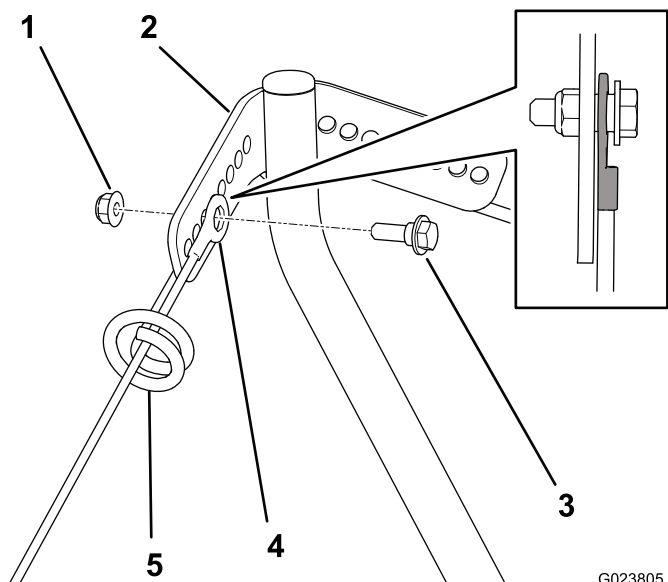


図 10

G023805
g023805

1. フランジナット (5/16 インチ)
2. ブーム
3. ショルダボルト
4. ケーブル
5. ケーブルサポート

4. 各ケーブルの上部をショルダボルトとフランジナット5/16 インチで固定する。

注 取り付け終了後、必要に応じて上部ケーブルの位置を調整してください [リフトインターン・システムを調整する \(ページ 11\)](#)を参照。

7

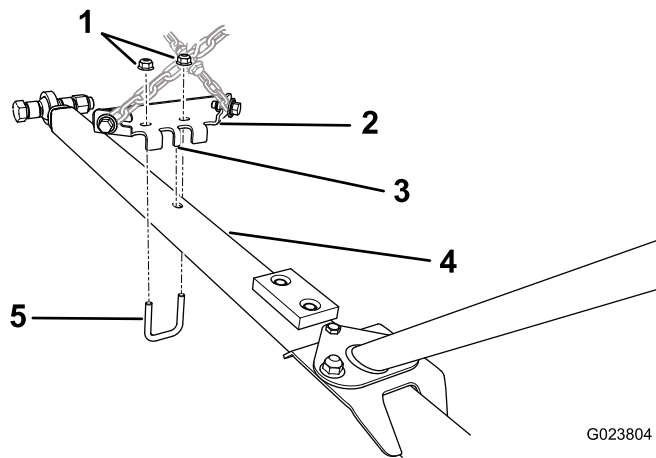
ストップチェーン・アセンブリを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ストップチェーン・アセンブリ
1	ボルト
2	フランジナット (5/16")

手順

1. 牽引バーブラケットについているセンタータブを、牽引バーの中央にある穴に合わせる [図 11](#)。



G023804

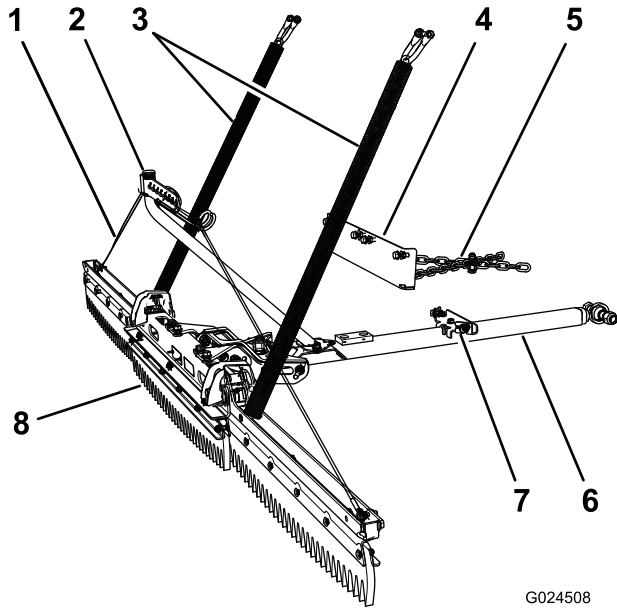
g023804

図 11

1. フランジナット (5/16 インチ)
2. 牽引バーブラケット
3. センタータブ
4. 牽引バー
5. ボルト

2. Uボルトを取り付け、フランジナット5/16 インチ2個で固定する。

製品の概要



G024508 g024508

図 12

- | | |
|--------------|-------------------|
| 1. ケーブル | 5. ストップチェーン・アセンブリ |
| 2. ブーム | 6. 牽引バー |
| 3. 昇降チェーン | 7. 牽引バーブラケット |
| 4. フレームブラケット | 8. レーキ |

運転操作

ウェイトの取り付けと取り外し

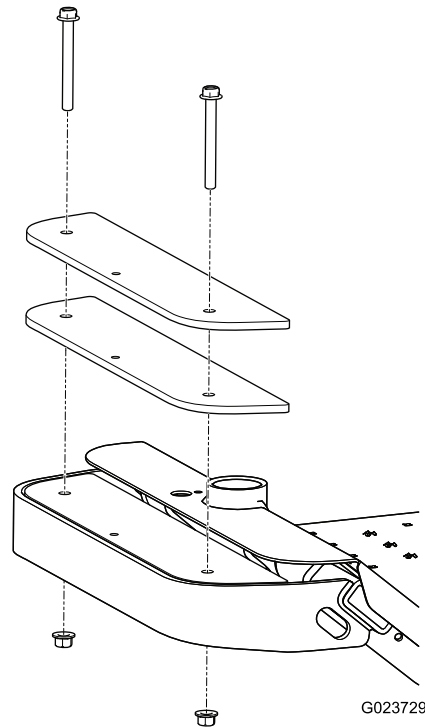
フレックス・ツースレーキには、ウェイトはマシンに付属しているウェイトが4個必要です。必ず、規定数のウェイトを取り付けて使用するようしてください。

マシン前部に搭載すべきウェイトの数を、下の表で確認してください。

アタッチメント	必要なウェイトの個数
フレックスツースレーキ	4
フレックスツース仕上げブラシ	6
ネイルドラッグ	6
ネイルドラッグ仕上げドラッグマット	8

1. 車体前部についている既存のウェイトのボルト2本とナット2本を外す [図 13](#)。

注 車体にライト照明キットが取り付けられている場合には、ヘッドライトを固定しているナットとボルトを外す。外した部品はすべて保管する **照明キット取り付け要領書**を参照のこと。



G023729

図 13

g023729

2. 必要に応じてウェイトの取り付けや取り外しを行う。
3. ウェイトを固定するボルト2本とナット2個を使用する。

注 車体にライト照明キットを取り付ける場合には、ヘッドライト・ボルトをウェイトに通し、ナットで固定してヘッドライトを固定します 照明キット取り付け要領書を参照。

レーキを機体に取り付ける

チェーンをアタッチメント昇降装置に取り付ける

1. 牽引バーを車体後部の下に引き入れる。
2. チェーンはケーブルの下を通して配設してください。
3. それぞれの昇降チェーンの端部にシャックルを取り付ける。

重要 チェーンがよじれていないことを確認する。

4. 各シャックルを、機体側の昇降装置に合わせる 図 14。

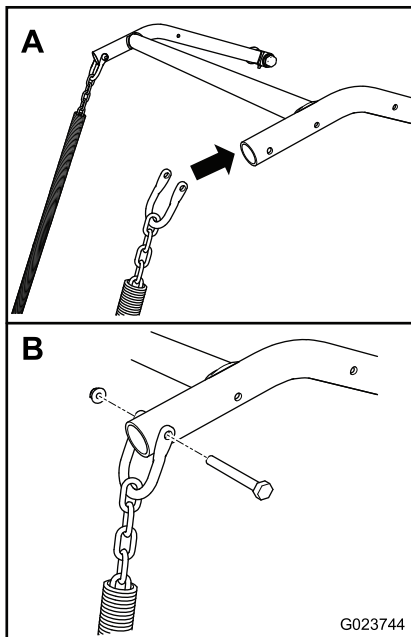


図 14

g023744

5. それぞれのシャックルを、フランジロックナット5/16インチとボルト5/16 x 2-1/2インチで固定する。

注 各ボルトのねじ山が、フランジロックナットのナイロン製のインサートに接触するよう、また、各シャックルが自由にピボット動作するようにしてください。

牽引バーをフレームヒッチに接続する

1. 牽引バーのロッド端部フレームヒッチに合わせる 図 15。

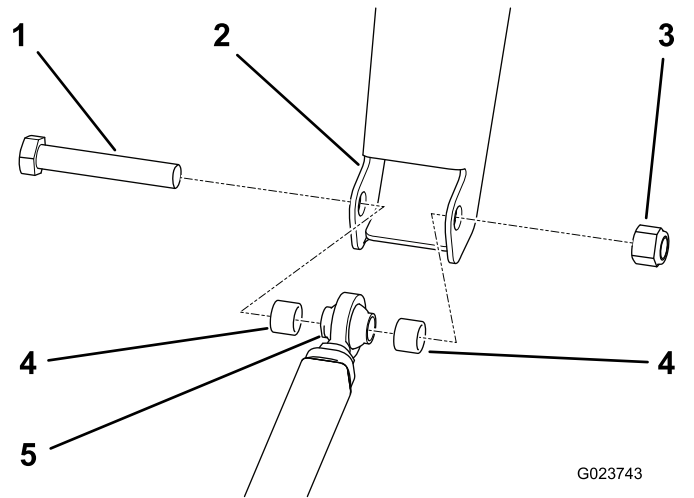


図 15

- | | |
|-----------------------|-----------|
| 1. ボルト3/4 x 4-1/2 インチ | 4. 短いスペーサ |
| 2. フレームヒッチ | 5. ロッドの端部 |
| 3. ロックナット3/4 インチ | |

2. ロッド端部の左右のスペーサをロッドに整列させ、フレームヒッチとスペーサとロッドにボルト3/4 x 4-1/2インチを通して相互に連結する。
3. ボルトにロックナット3/4インチを取り付け、163 - 217 N.m 16.6 - 22.1 kg.m = 120 - 160 ft-lbにトルク締めする。

フレームブラケットを接続する

1. マフラーシールドを機体後部に固定しているナットとボルトを外す 図 16。

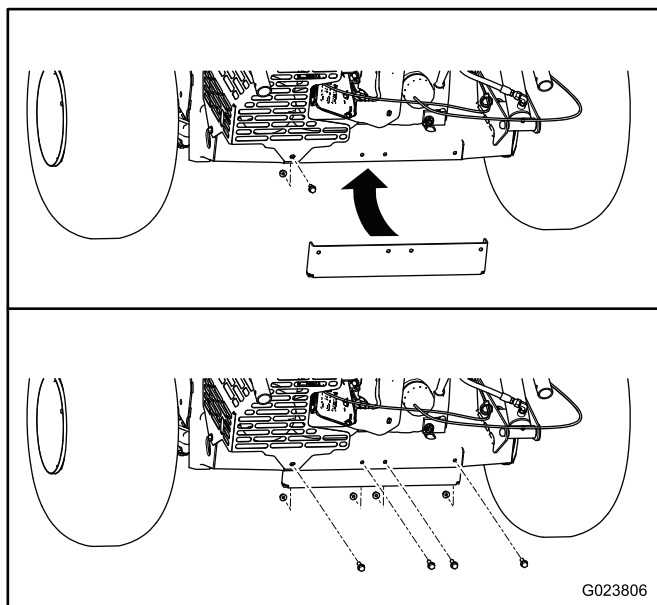


図 16

2. フレームブラケットの穴を、フレームのボルト穴に合わせる。

注 チェーンは図 17 のように交差配置してください。

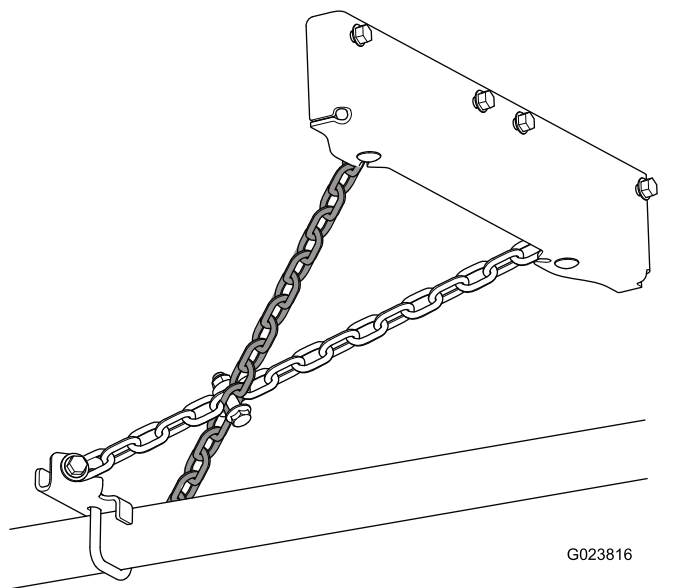


図 17

機体は図示せず

3. フレームブラケットをボルト5/16 x 1 インチ4本とフランジナット5/16 インチ4個で固定する 図 16 を参照。

ピボット・ストップボルトを調整する

1. レーキを左右どちらかに振る。レーキがタイヤから 51 mm 離れた位置でストップボルトが牽引バーに接触するかどうか確認する 図 18。

ストップボルトとタイヤとの間に 51 mm のすきまがあれば調整は不要である。

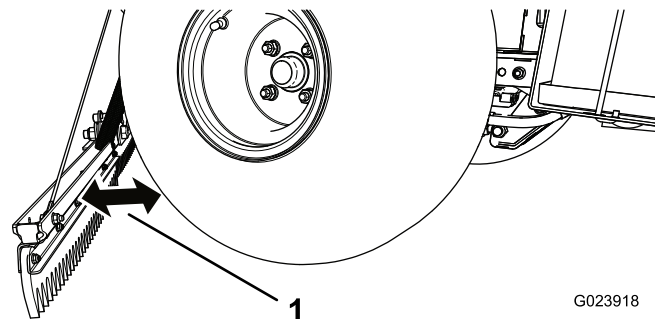


図 18

1. 51 mm

2. タイヤとレーキとの間のすきまが大きすぎるか小さすぎるかを判断する。

- すきまが小さすぎる場合はフランジロックナットをゆるめる。
- すきまが大きすぎる場合はジャムナットをゆるめる。

注 ボルトの首の四角い部分にレンチを当てておくとボルトが回転しません。

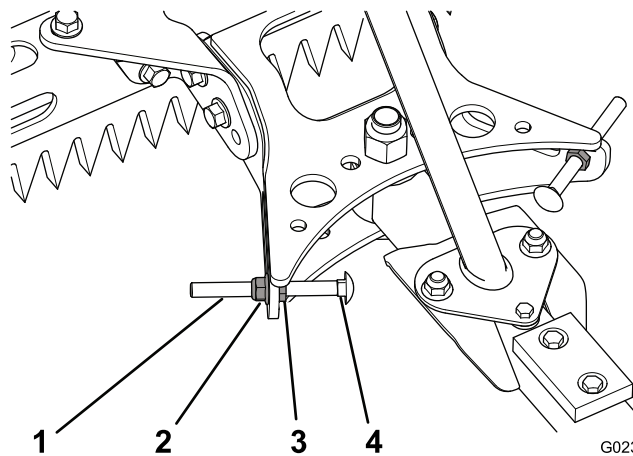


図 19

- | | |
|---------------|------------|
| 1. ストップボルト | 3. ジャムナット |
| 2. フランジロックナット | 4. 首の四角い部分 |

3. ストップボルトが正しい位置レーキとタイヤとの距離が 51 mm に調整できたら、先ほどゆるめたナットの対向ナットを元通りに締め付ける。

- フランジロックナットをゆるめた場合には、ジャムナットを締め付ける。
- ジャムナットをゆるめた場合には、フランジロックナットを締め付ける。

注 ボルトの首の四角い部分にレンチを当てておくとボルトが回転しません。

4. もう一方のストップボルトにも同じ作業を行う。
5. レーキの首振り範囲のどの位置でも、レーキがタイヤに接触しないことを確認する。

均しパターンを点検し、リフトインターン・システムを調整する

均しパターンを調整する

1. タイヤが適正空気圧 $48 \text{ kPa} = 0.49 \text{ kg/cm}^2 = 7 \text{ psi}$ に調整されていることを確認する。
2. マシンをサンドトラップできればフラットな場所に乗り入れる。
3. レーキを降下させ、左旋回でレーキが最大角度になるようにして走行する。
4. 走行を停止し、エンジンを停止し、駐車ブレーキを掛け、キーを抜き取り、可動部すべての動作が停止するのを待つ。
5. マシンから降りて、レーキが砂の上を通った道筋を確認する。

注 タイヤが通ったあとをレーキがきちんと均していて、タイヤ跡からレーキがはみ出ていなければ良い。レーキの通り道が規定どおりでない場合には [リフトインターン・システムを調整する \(ページ 11\)](#) を参照。

6. 右側のレーキについても同じ作業を行う。

リフトインターン・システムを調整する

1. ステップ 1 から 5 まで [均しパターンを調整する \(ページ 11\)](#) を行う。
2. レーキを左右どちらか一杯に振る。
3. ターンの内側レーキが左に振られている場合には左側で、レーキがタイヤ跡よりも深く砂を掻いているのか、それとも砂とレーキとの当たりが不十分なためにタイヤ跡が消えないのかを判断する。
4. ケーブルの上部が取り付けである穴の位置を確認する。
5. ショルダボルトとフランジナットを外し、ケーブルを適当な穴に移動する。
 - レーキが砂を掻きすぎていてタイヤ跡よりも外にはみ出ている場合には、ケーブル上部をブームの中心に近い穴に移動する。

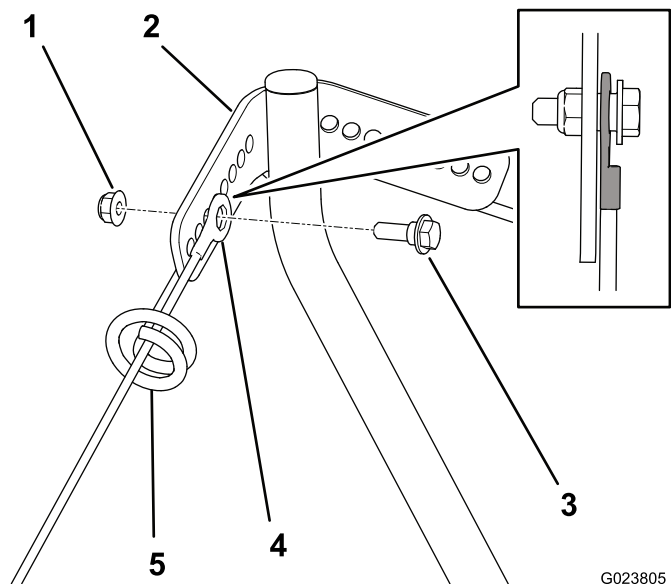


図 20

G023805
g023805

- レーキが砂を十分に掻いておらず、タイヤ跡が消えない場合には、ケーブル上部をブームの中心から遠いほうの穴に移動する。

6. ショルダボルトとフランジナットでケーブルを固定する。

注 ケーブルの絡みつきなどが起こらないようにするため、ケーブル端部は [図 20](#) に示すように固定してください。

7. マシンのもう一方の側でも同じ作業を行う。

レーキのピッチを調整する

レーキのピッチを調整することにより、レーキの食い込み深さを調整することができます。レーキのエッジを前方に、すなわち機体に向ける [図 21](#) ように調整すると、レーキの食い込み深さが大きく、かきだし量が多くなります。レーキのエッジを後方に、すなわち機体と反対側に向ける [図 23](#) ように調整すると、レーキの食い込み深さが浅く、かきだし量が少なくなります。

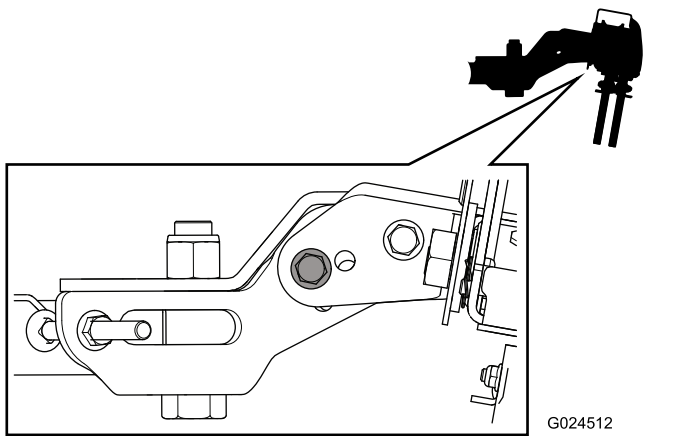


図 21
前方に向けた状態

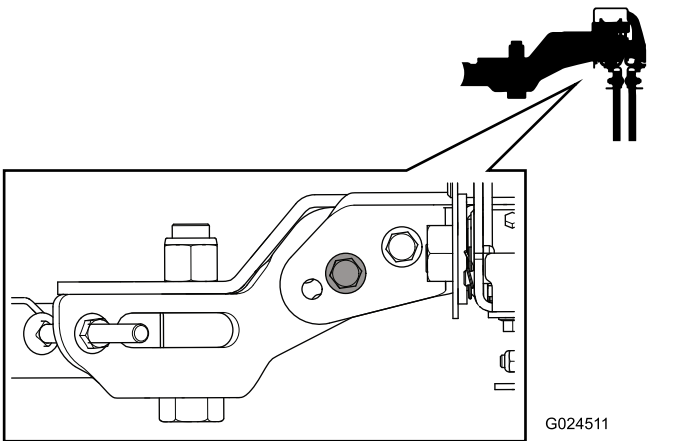


図 22
中間

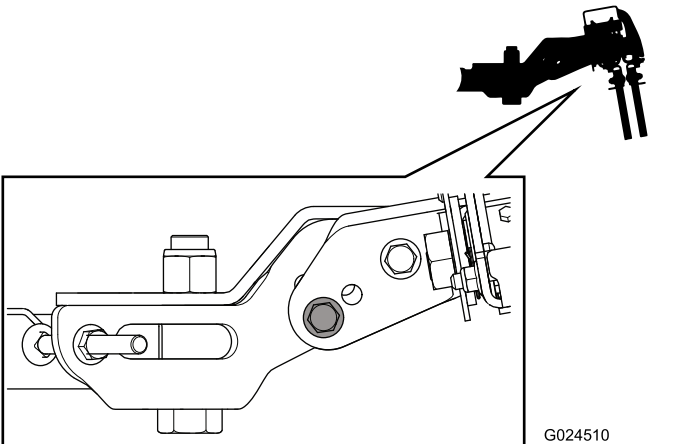


図 23
後方に向けた状態

1. レーキ・アセンブリをブラケットに固定している前側ナットとボルトを外す 図 24。

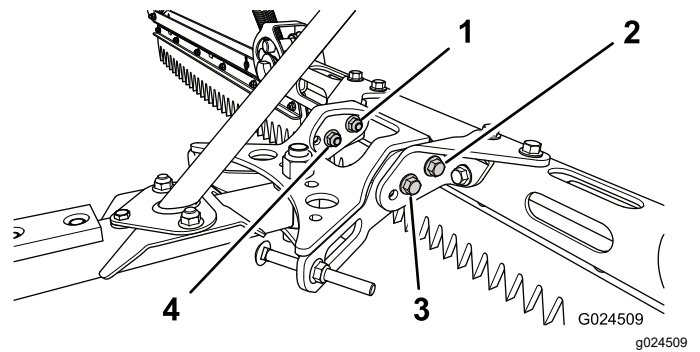


図 24

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 後フランジナット2個 | 3. 前ボルト2本 |
| 2. 後ボルト2本 | 4. 前フランジナット2個 |

2. 後側ナットおよびボルトをゆるめる。
3. 好みのピッチにレーキを調整し、その調整に最も近い穴に合わせる。

注 中間位置の場合は、後ボルトに近い穴を使用する。それ以外の2つの位置の場合は、後ボルトから遠い穴を使用する。

4. 穴にボルトを通し、ナットで固定する。
5. 前側および後側のボルトのナットを締めつける。

レーキの上昇と下降

レーキの上昇・下降は、アタッチメントスイッチマシン右側のコントロールハンドルについているで行います。

スイッチの上側を押すとレーキが上昇し、スイッチの下側を押すとレーキが下降しますマシン本体のオペレーターズマニュアルを参照。

機体からレーキを取り外す場合の手順

⚠ 警告

アタッチメントを取り付けずに法面を上ると、転倒して人身事故または物損事故を起こす危険がある。

マシンは、必ず、トロが承認したアタッチメントを取り付けた状態で運転すること。

1. フレームヒッチから牽引バーを外す。
2. アタッチメント昇降装置からシャックルを外す。
3. 機体後部からフレームブラケットを外す。

バンカー内でのレーキ作業

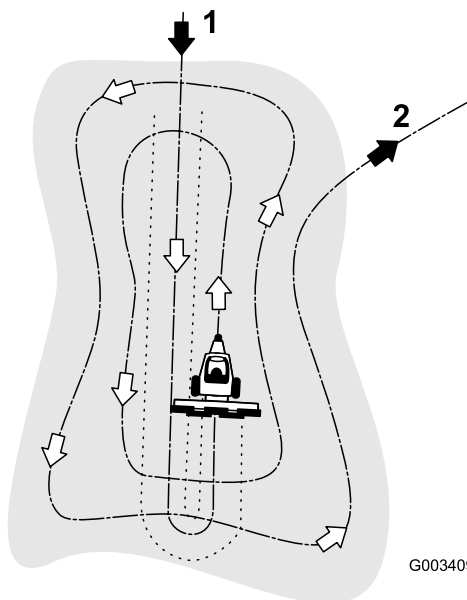
実際にレーキ作業を行う前に、この項全体をよく読んでください。バンカーのコンディションは千差万別なので、色々な調整が必要になります。砂の質や深さ、湿り具合、雑草の有無、固結の状態など様々な要因が色々な重なり合い、ゴルフ場によって、さらにはバン

カーゴにも異なっています。ですから、作業する場所の条件に合わせて、最も良い結果が得られるようにレーキを調整してください。

レーキ作業に慣れる

最初はなるべく広くてフラットなサンドバンカーを選んで練習してください。発進、停止、旋回、レーキの上昇と下降、バンカーへの出入りなどを練習します。エンジンの速度を中程度に調整し、ゆっくりとした走行で練習しましょう。十分に練習してマシンの操作に慣れれば、運転にも作業にも自信が生まれてきます。

図 25 に一般的に推奨されるレーキングのパターンを示します。このパターンで作業すると、無駄な重なりをなくし、固結を最小限に抑えながら、美しい砂模様を作ることができます。これが最も効率の良いレーキ方法ですが、レーキングのパターンを固定するとそのうち洗濯板のようになりますから、これを避けるためにパターンを定期的に変更するようにしてください。



G003409

g003409

図 25

1. 壁の低いところを選んでバンカーの軸に沿って真っ直ぐに入る。
2. 平らなところを選んでほぼ垂直に出る。

バンカーの長い軸に沿って、壁が一番低くなっているところから真っ直ぐに中に入ります。バンカーの中心線に沿ってほぼ反対側まで真っ直ぐにレーキを掛け、左右どちらかになるべく小さくUターンし、ぴったり折り返すようにしてレーキ作業を続けますこの操作を繰り返して、図 25 に示すように外へ外へとらせん状にレーキ掛けを行い、最後に、平らな場所からほぼ直角に外へ出ます。

急斜面、非常に小さいバンカー、ポケット部などには無理に入り込まず、後から手作業で仕上げてください。

サンドバンカーへの出入り

バンカーに入る時には、レーキが実際に砂の上に降りるまで、レーキを下げたはけません。レーキを早く下げると、ターフを傷つけたり、刈りかすやその他のゴミをバンカーの中に引きずりこんでしまったりします。レーキは、走行しながら下げてください。

バンカーを出る時には、前輪がバンカーを出た時を見計らってレーキを上昇させます。そのままスムーズにバンカーを出れば、ターフの中に砂を引きずり込んだりすることなく、きれいに出口から出てきます。

バンカーへの出入りのタイミングは、少しの練習と経験で、すぐに身に付けることができます。

故障探究

問題	考えられる原因	対策
グルーミングし残した部分が雨だれ形に残る。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「リフト・イン・ターン」ケーブルの調整不良。 2. ピボットストップボルトの調整不良。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しく調整する。 2. 正しく調整する。
作業跡がきれいでない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. レーキのピッチの調整不良。 2. 標準構成では思ったような仕上がりにならない。 3. 走行速度が速すぎ、または遅すぎる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しく調整する。 2. ブルーム仕上げキット別売オプションを取り付ける。 3. 走行速度を調整するか、速度リミッタ・キット別売オプションを取り付ける。
レーキがタイヤに接触する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピボットストップボルトの調整不良。 2. ストップチェーンが正しく組み付けられていない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しく調整する。 2. ストップチェーンが互いに交差していること、また、チェーンを固定しているボルトが牽引バーから6番目のリンクに取り付けられていることを確認する。
レーキのサイドアセンブリとセンターアセンブリとの接続部のところがグルーミングされない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. レーキアセンブリの取り付けが正しくない。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. センターアセンブリに対するサイドアセンブリの取り付けが正しいことを確認する。センターアセンブリとサイドアセンブリの間のすき間が最も小さくなるように取り付けるのが正しい。
作業した場所にタイヤ跡が残る。	<ol style="list-style-type: none"> 1. レーキが完全に降りていない。 2. ホゴカバーの内部で昇降チェーンがねじれている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業時はレーキを完全に降ろす。 2. シャックルを外し、チェーンのねじれを解消してからシャックルを元通りに取り付ける。

メモ

メモ

メモ

組込宣言書

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記述されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
08716	314000001 以上	サンドプロ 2040Z トラクションユニット用フレックス・ツースレーキ	TOOTH RAKE - SANDPRO 2040Z	フレックス・グルーマ	2006/42/EC

2006/42/EC 別紙 VII パートB の規定に従って関連技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

確認済み

権限を有する代表者



Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro Europe NV
Nijverheidsstraat 5
2260 Oevel
Belgium

Tom Langworthy
エンジニアリング担当取締役
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
9月 23, 2022

UK Declaration of Incorporation

The Toro Company, 8111 Lyndale Ave. South, Bloomington, MN, USA は、以下に挙げるユニットが、以下に列挙する指令に適合していることをここに宣言しますただし、各ユニットに付属する説明書にしたがって、「適合宣誓書」に記載されている所定のトロ社製品に取り付けることを条件とします。

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
08716	314000001 以上	サンドプロ 2040Z トラクションユニット用フレックス・ツースレーキ	TOOTH RAKE - SANDPRO 2040Z	フレックス・グルーマ	S.I. 2008 No. 1597

S.I. 2008 No.1597のSchedule 10に基づいて、関連する技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

This declaration has been issued under the sole responsibility of the manufacturer.
The object of the declaration is in conformity with relevant UK legislation.

権限を有する代表者

Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro U.K. Limited
Spellbrook Lane West
Bishop's Stortford
CM23 4BU
United Kingdom



Tom Langworthy
エンジニアリング担当取締役
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
9月 23, 2022



Toro 製品の総合品質保証

限定保証

保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品「製品」と呼びますの材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証は、エアレータ以外のすべての機器に適用されますエアレータ製品については別途保証があります。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われる場合には、「製品」を納入した弊社代理店ディストリビュータ又はディーラーに対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952-888-8801 または 800-952-2740
E-mail: commercial.warranty@toro.com

オーナーの責任

「製品」のオーナーは、オペレーターズマニュアルに記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません

- Toroの純正交換部品以外の部品を使用したことまたはToroの純正部品以外のアクセサリーや製品を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨された整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。オペレーターズマニュアルに記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、プレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリングシールドタイプ、グリス注入タイプ共、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャストホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、その他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェックバルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない燃料、冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- エンジンのための適正な燃料ガソリン、軽油、バイオディーゼルなどを使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。

米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店ディストリビュータまたはディーラーへおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。

- 通常の使用に伴う運転音や振動、汚れや傷、劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

部品

定期整備に必要な部品類「部品」は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって取り付けられた部品は、この製品保証により保証期間終了まで保証され、取り外された部品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するか判断は弊社が行います。弊社が保証修理のために再製造した部品を使用する場合があります。

ディープサイクルバッテリーおよびリチウムイオンバッテリーの保証

ディープサイクルバッテリーやリチウムイオンバッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量kWhが決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。注リチウムイオンバッテリーについてリチウムイオンバッテリーには、その部品の性質上、使用開始後3-5年についてのみ保証が適用される部品があり、その保証は期間割保証補償額減方式となります。さらに詳しい情報については、オペレーターズマニュアルをご覧ください。

保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用中に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

エンジン関係の保証について

米国においては環境保護局EPAやカリフォルニア州法CARBで定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧ください。